

動物とのふれあいで学ぶこと

「今日は、すごく楽しみにしていた日なんです。」と笑顔で校長に話しかけてくれた1年生。動物の専門学校様のご協力のもと、1年生は動物とのふれあいを楽しみました。フクロウや亀に触るだけでなく、モルモットの心臓の音を聴く体験もしました。子供たちに感想と聞くと、「ふわふわして気持ちよかった。」「おなかの音を聞くと、ドクドクしていた。心臓の音だと分かった。」「命ってあったかいんだな、と思った。」などの感想を教えてくださいました。この体験を教科等の学びにするのが、学校の役割にあります。「ふわふわという感触を形で表す活動」となれば図画工作科ですし、「ふわふわという感触を音で表す活動」となれば音楽科です。「命あるものを大切にしようとする意欲を育てる」となれば道徳科です。まずは活動を通して思ったことや考えたことを言葉にすることから学びをつくっていきます。ぜひ、おうちでも子供たちの学校での学びを話題にしてください。



児童会活動

児童会活動とは、子供たちが主体となって学校生活をよりよくするために行う活動です。学校の決まりや行事を考えたり、みんなが過ごしやすい学校の環境をつくったりする活動を通して、自主性を育み友達と協力する力を身に付けます。2月には、次のような楽しい活動を実施してくれました。

広報委員会による「クイズラリー」

「いつもは、中央廊下に新聞を貼っているのですが、志免中央小や志免町のことをもっと知ってもらおうと企画したのが、クイズラリーです。志免中央小や志免町に関する記事を読んでもらうよりも、ラリーにしたほうがおもしろいかなと思いました。外でやるほうが積極的に動けるし、クイズを読んで気になる内容だったら調べる動機にもなるし、そうするともっと学校や町のことを知るきっかけにもなるかなと思って。」と取材に応じてくれた広報委員。イベントによる広報活動は、子供たちが大人になっても生かせる活動になるでしょう。

給食委員会による「給食すごろく」

マスク持参を徹底するにはどうしたらいいか・・・この課題解決に向け、給食委員会が考案したのが「給食すごろく」です。マスクとナフキンを持ってきている人数が多いほど、マスを進めることができます。この取組によりどのような変化が見られたか栄養教諭に聞くと、「子供たちはマスクを持ってくるようになりました。この取組によって一気に改善したので、子供たちのアイデアってすごいなと感心しました。」との回答でした。課題解決の過程を可視化した取組でした。こうやって、学校の課題を楽しみながら解決していく活動を考案する5・6年生と担当の先生たち。よりよい中央小へと向かっていく過程を振り返ることで、「私たちが解決できる」という自信につないでいきます。

